

くらふと

県育協だより

発行
鳥取県子ども家庭育み協会
広報委員会
第41号

令和6年度鳥取県内保育所（園）・認定こども園 実態調査



「コロナ後の保育現場の実態・課題について」



世界的に猛威を振るい、長い間あらゆる社会生活を振り回した新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが5類に変更され1年以上が経過し、コロナ前の日常がほぼ戻ってきたのではないかと思うものの、様々な場面で自粛を求められた強い閉塞感の中、全国的なニュースでとりあげられるほど、保育現場における不適切保育が深刻な問題として注目されるようになりました。

この度、アフターコロナといわれるコロナ後の今、コロナ以外のことも含めた県内保育現場の実態、課題等を把握するため、アンケートを実施したところ、コロナ禍のいろいろな制限がなくなり、ようやく、のびのび自由にやりたいことができるようになったと喜ばしい反面、行

事、保護者対応等コロナ前と全て同じにしなくてもよいのでは？という新たな気づきがあること、併せて、不適切保育について、職員の皆さんが複雑な思いを抱きつつも、高い意識をもってこの問題に向き合わなくては解決しないという強い気持ちを持たれていることがわかりました。以下に詳しい考察を掲載いたします。決して万事満足というわけではないですが、各所（園）共、より良い保育を目指して日々奮闘し、様々な問題点について投げ出さずに向き合っているということを感じていただければ、また明日から頑張ろうという気持ちに繋がるのではと思います。

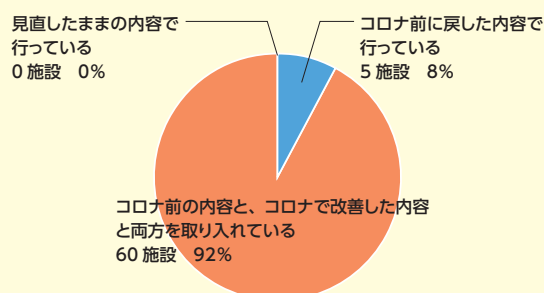
お忙しい中、アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。

（調査委員：伊藤幸恵、伊藤恵美子、井上 道、塩坂幸子、林 美樹、前田侑子）
回答 65 施設／依頼数 139 施設（回収率 46.8%）

I. コロナ後の保育について

(1) コロナで見直した行事や活動(食育活動等)内容は、現在どのように行われているかお答えください。

(1) コロナで見直した行事や活動(食育活動等)内容は、現在どのように行われているかお答えください。
n=65

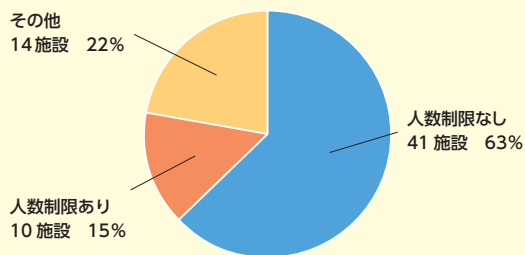


考 察

- コロナ禍で行事や活動などが各保育所（園）・こども園で試行錯誤し行事の見直しをされ、ほとんどの園がまだ移行の段階だったことがわかる。
- 縮小行事など様々な工夫をし、少し形を変えても子どもたちに様々な活動や取り組みを、できるだけたくさん経験させてあげることが課題であり目標だと思う。

(2) 行事の参加人数の制限(保護者)は、現在どのようにされているかお答えください。

(2) 行事の参加人数の制限(保護者)は、現在どのようにされているかお答えください。 n=65



- ▶ 行事によるが、ほぼ人数制限はなし。
- ▶ 感染状況や行事の内容により人数を制限している。
- ▶ コロナ対応ということではなく、会場の面積、会場が室内・室外など園の環境により人数制限を設けている。

考 察

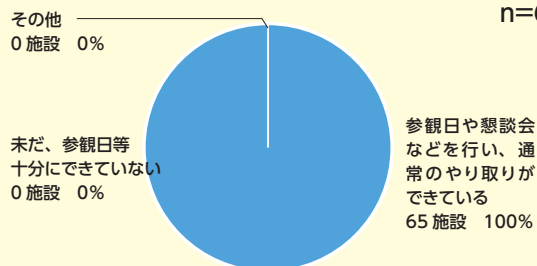
- 参観日や懇談会など保護者との関わりはコロナ前のように戻っており、保護者との共通理解はできているようだ。しかし、コミュニケーションがとれない時期を何年も過ごしてきた保護者への支援は必要である。

考 察

- コロナ禍前の人数制限なしの園が半数以上だが、屋内、屋外の行事や感染症の状況によって人数制限したりと、臨機応変に対応しながら行っている園が多かった。
- 子どもの成長を行事等を通して保護者に見てもらえる機会を増やしていくことが課題だと思う。
- コロナが5類に移行されたことにより、行事が徐々に再開されたことは喜ばしい。また、コロナを経験したことにより、行事の見直しができたり、オンラインを活用したりすることも大きな変化となった。

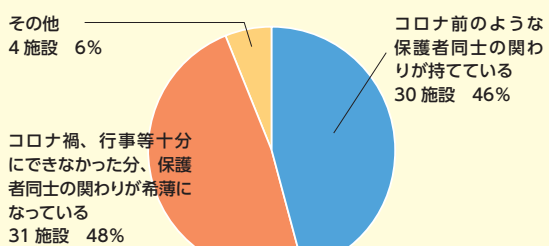
(3) 保護者との関わりについて、現在の状況を教えてください。

(3) 保護者との関わりについて、現在の状況を教えてください。 n=65



(4) 保護者同士の関わりについて、現在の状況を教えてください。

(4) 保護者同士の関わりについて、現在の状況を教えてください。 n=65



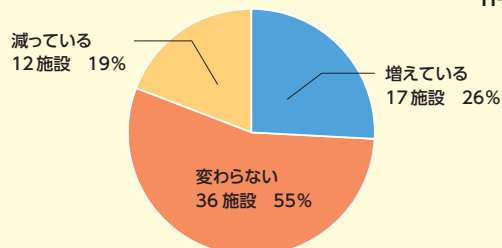
- ▶ まだ十分とは言えないが、コロナ前に戻つつある。
- ▶ コロナ前後で特に変わりはないように感じる。
- ▶ 0、1 歳児のみの園なので、もとより保護者同士の関わりが深まることは無かった。

考 察

- コロナ禍で行事が中止・縮小され、保護者同士が接する機会が減少したが、コロナ前のようにとはいながらも保護者同士で関わりを持とうとしているのを感じる。

(5) 保育者の業務量や負担感について、現在の状況を教えてください。

(5) 保育者の業務量や負担感について、現在の状況を教えてください。 n=65



(6) (5)で「増えている」とお答えされた方にお尋ねします。その業務内容や負担感を具体的に教えてください。

- ▶ 参加型の研修会が増え、報告書や伝達に費やすのが後日になる為。
- ▶ 保護者対応、特別支援、要対協ケースの件数増加に伴う対応や事務業務の増加。
- ▶ 消毒や清掃がコロナ禍より減ったものの、コロナ前と比較すると念入りに行っている。
- ▶ コロナ禍に中止していた行事が復活したことによる負担。
- ▶ 不適切保育や事故防止のため、心理的な負担感が増えている。
- ▶ ICT化に伴い便利になった部分も多いが、管理するものの負担も多くなった。
また、保育士は、保護者への連絡帳(ICT)の返信に追われている。
- ▶ 常勤保育士の雇用が難しく、シフト勤務の負担が増えている。

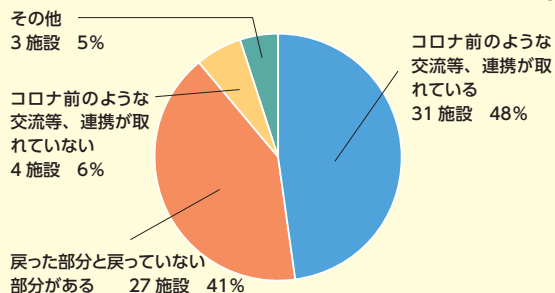
考 察

- コロナ禍で改善されたり見直したりした業務のなかで、保育者の負担が減った部分と増えた部分があり、労働環境を再度見直す必要があるように思う。
- コロナ禍の消毒作業などは軽減されたものの、家庭支援・発達支援などが増加しており、保育士等職員の業務量は軽減されていない。また、業務軽減のために導入したICTにより便利になった業務もあるが、逆にシステムの操作を覚えるまでに時間がかかり仕事量が増えてしまったというケースも見受けられる。

(7) 地域の方との連携について、現在の状況を教えてください。

(7) 地域の方との連携について、現在の状況を教えてください。

n=65



- ▶ 公民館祭りの内容が見直され、園児の作品展示が無くなった。その分、別の形で公民館との交流をとっている。
- ▶ 今年度より地域の方と年長児とのあいさつ運動を始めた。
- ▶ 地域の方が高齢になられたために止めたもの、新たに小学校との連携など増えたものもある。

(8) (7)で「コロナ前のような交流等、連携が取れている」とお答えした方にお尋ねします。交流等を行ううえで工夫している点を教えてください。

- ▶ なるべく人数制限無しで行っている。
- ▶ 人数制限をするなど、お互いがコロナ禍で学んだ感染対策を講じながら行っている。
- ▶ 地域の方がコロナ時も連携推進の必要性を感じておられ、再開に積極的で、感染予防に努めながら行っている。
- ▶ 公民館、児童館、地域のお店見学など積極的に出かけるようにしている。
- ▶ 地域との連携は、コロナ禍もリモートを利用しており、現在も変わりなく行っている。
- ▶ 中学校区の研修等戻っている。また、校区中学生の体験学習を取り入れた。
- ▶ 交流や活動に継続性を持つようにしている。
- ▶ 地域と保護者の関係性ができるような行事内容の工夫。

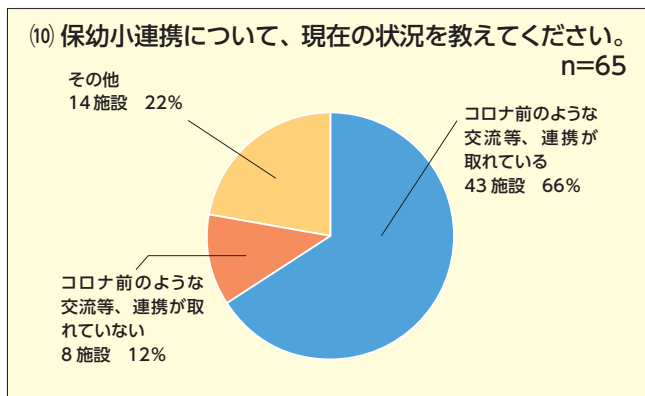
(9) (7)で「戻った部分と戻っていない部分がある」とお答えした方にお尋ねします。その内容や理由を教えてください。

- ▶ 交流時の体調などをお互いこまめに連絡し合い、時間を短くして行うようにした。
- ▶ 大人数集まる交流では飲食は行わない。
- ▶ コロナが終息したわけではないので、園主催の行事は中止している。
- ▶ 一旦中断した行事を復活させるためには、一から打ち合わせをすることになり、一度には元のように戻れない。
- ▶ 地域の高齢者や高齢者施設との交流は再開していない。
- ▶ コロナ禍をきっかけに地域との行事の見直しをした。(見直しをしているところ。)
- ▶ 園側が交流を再開したいと思っても、相手側から拒否されることがある。
- ▶ よく検討する機会と時間が不足している。

考 察

- コロナが5類になった今もなお感染症の警戒や心配で、特に高齢者との交流が難しくなっているという現状だが、子どもが様々な人と交流することで豊かな心やつなぐ力を育むためにも交流の仕様を変えたり、創意工夫をしていかなければいけない。

(10) 保幼小連携について、現在の状況を教えてください。



- ▶ 研修などが行われ、少しずつ連携や交流ができるようになってきた。
- ▶ 室内活動は人数が多くならないようにするなど、相談しながら進めている。
- ▶ 以前は小学校、保育園が相互理解のために出向いて研修を行っていたが現在はできていない。
- ▶ 年度がスタートしたばかりで、これから連携の計画を立てていく。
- ▶ 今年度より積極的に交流を持つように連携をとっている。
- ▶ 未満児施設のため交流はない。

(11) (10)で「コロナ前のような交流等、連携が取れている」とお答えした方にお尋ねします。
交流等を行ううえで工夫している点を教えてください。

- ▶ マスク着用などの感染対策や短時間での工夫、空間・環境設定の工夫。
- ▶ 小学校との話し合いや交流計画作成など密に連携をとりながら行っている。
- ▶ 小学校だけでなく、小学校区の保育園・幼稚園との横のつながりを意識した交流活動を行っている。
- ▶ 人との関わりが希薄になっていた時期、心の育ちの未熟さを感じていたので、今年度は交流を多く持ち、小学生から様々な面で学びたいと計画している。
- ▶ コロナ禍に交流をしていなかったことが楽だと職員が感じやすいので、交流する意義を全職員で確認するようにしている。
- ▶ 互惠性を大事にしている。
- ▶ 期待して活動できるよう、交流時のペアの顔（写真）や名前がわかるようにしている。また、保護者にも予告編のお便りを配信している。

(12) (10)で「コロナ前のような交流等、連携が取れていない」とお答えした方にお尋ねします。
その理由等を教えてください。

- ▶ 協議会等はできているが、元に戻すことが難しく、交流できる機会や訪問等が減少した。
- ▶ 夏休みに行なっていた教職員の保育体験が学校都合で来られなくなった。
- ▶ コロナを機会に見直しをしている。（回数など）
- ▶ コロナ禍の数年間で教職員の異動があり、以前の連携の趣旨や目的を共有するのにもう少し時間が必要。

考 察

- お互いの感染状況等を考慮し、対策をしながらも、子どもたちの生活や学びの基盤とし、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続できるよう保幼小をつなぐ取り組みが大切だと思う。
- 6月時点で多くの園がコロナ前のような交流・連携が取れているとの回答から、コロナ前からしっかりと交流が行われていたことが伺える。5類移行とともに小学校との交流などがスムーズに行えるようになったのではと考える。反面、元に戻すことが難しいという園もあり、園・小学校それぞれの職員の異動など何らかの原因があり、今後の検討事項である。何より、子どもたちの健やかな育ちのためには社会とのつながりは大切な事柄であり、地域の方、小学校等との連携がさらに深まることを期待する。

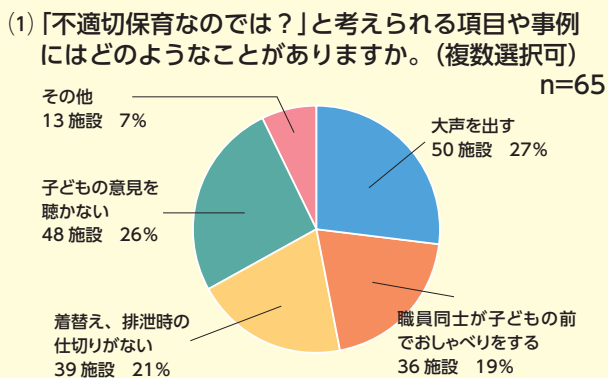
(13) コロナ後の保育士等職員のメンタル面等心配なことや悩みがあればお書きください。

- ▶ やらないで済むことが多かったため、それに慣れてしまった。
- ▶ 誰かの正義は、誰かの不義になるのを痛感した。
- ▶ コロナ禍の方がメンタルがギリギリだった。
- ▶ 5類に移行し、通常保育が可能になったので心配や悩みはなくなった。

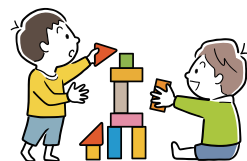
- ▶ 業務に対する負担感や行事に対する不安感。
- ▶ なかなかマスクを外すことができない。
- ▶ 消毒を徹底していたことをコロナ後はどこまで寛容にするのか。また、共食をどの程度考えていくのか。
- ▶ 保護者とのコミュニケーションが少なかった時期に採用された職員は、コロナ後は保護者対応に気を遣い疲れを感じやすい。また、保護者にも繊細なメンタルの方が多く、その対応に保育者は苦心している。
- ▶ 個人面談を定期的に行い、悩みを聞いたり、その人の良い所、頑張っている姿を伝える。
- ▶ 5類になり、コロナに感染して仕事を休むと有給休暇が減る。また、予防接種料もかかる。
- ▶ 家庭支援や発達支援の増加で業務の複雑化や増加はあるにもかかわらず、職員の配置割合は変更にならない。人的にも時間的にも余裕がなく、大変さが増幅している。
- ▶ コロナ禍で見直したことで、方法や内容を無理に詰め込み過ぎないようにはなったが、今後次第に求められることが増えてくると、その圧に耐えられるのかなという心配をしている。

Ⅱ. 不適切保育について

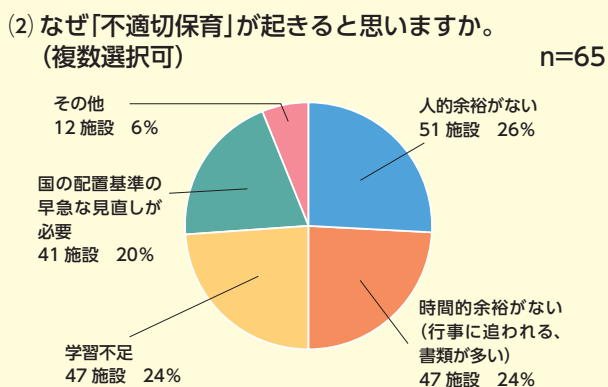
(1) 「不適切保育なのは？」と考えられる項目や事例にはどのようなことがありますか。(複数選択可)



- ▶ 怖い顔でにらむ、子どものペースに合わせず保育を進める等
- ▶ 怒鳴ったり子どもが怖がるものを使って恐怖心を与える。
- ▶ 職員の感情や都合で園児に厳しく当たる、職員間でも思いやりを持った言動ができない。



(2) なぜ「不適切保育」が起きると思いますか。(複数選択可)

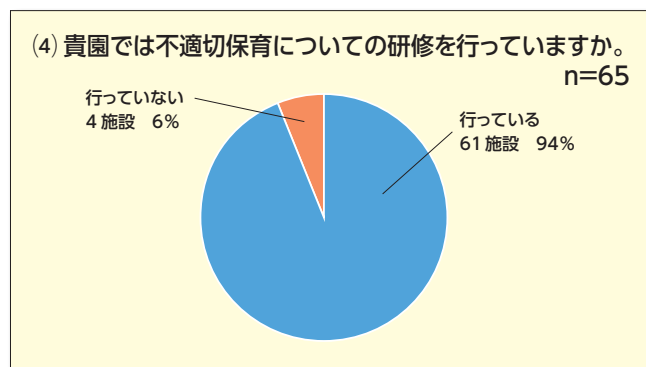


- ▶ 保育は個人の価値観、性格が反映し、職員集団の雰囲気にも合わせるような、同調圧力もある。そのうちに、染まって行く人、合わなくて辞める人に分かれると思う。
- ▶ クラスが孤立している、他クラスの保育に無関心等
- ▶ 指導不足、管理者の現状把握が足りない等
- ▶ 建物の環境の見直しができず、より良い環境への工夫が難しい。
- ▶ 人権意識の低下、職員間のチームワーク、管理職の考え
- ▶ 学習はしているが、具体的な場面での行動の変容が難しい

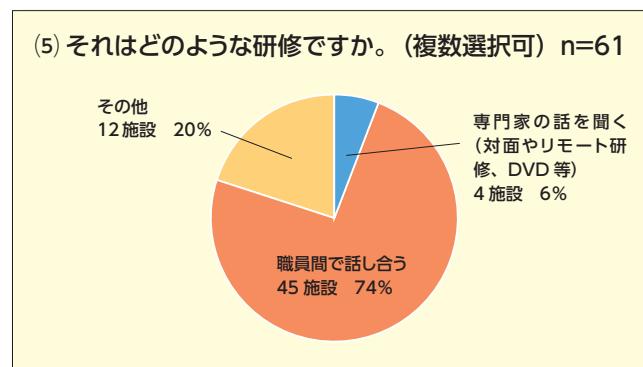
(3) どうしたら「不適切保育」を防げると思いますか。

- ▶ 職員が子どもへの理解を深め、結果ではなくその子の発達に合った成長を見取る力をつけていくこと。
- ▶ 研修などを受け保育者の意識改革、保育の質の向上を図る。
- ▶ 職員が安定した状態で意欲を持って仕事ができるよう、人的、物的、精神的に安定できる状態であること。
- ▶ 保育所は人間形成を作る大事な土台の場所と社会全体が認識し、保育所は「養護及び教育を一体的に行う教育機関」であるゆえ、保育士は専門職という責任と意識を高め、それに見合った高賃金にする。
- ▶ 自覚のない場合もあるため、他者から見て何が不適切だと感じるかを理解すること。
- ▶ 職場での話しやすい雰囲気づくり、チームワーク。
- ▶ 不適切保育が起こりうる原因を管理者が把握し、職員と共に早急に解決していくことが最善の策だと考える。

(4) 貴園では不適切保育についての研修を行っていますか。

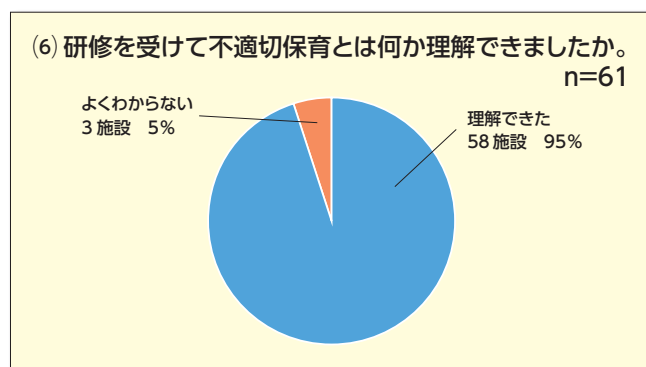


(5) (4)で「行っている」とお答えされた方にお尋ねします。それはどのような研修ですか。

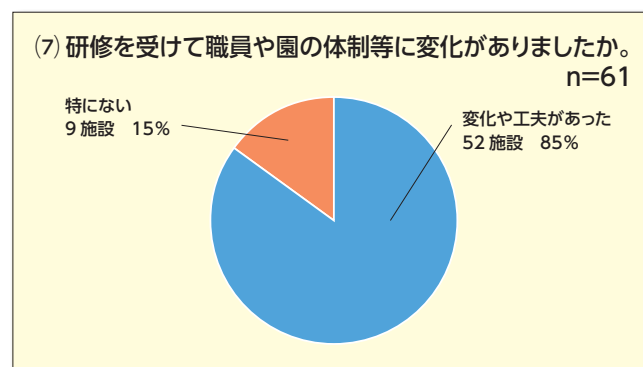


- ▶ 人権擁護のためのセルフチェックを全職員が行い、結果をもとに職員間で不適切保育について話し合いをした。
- ▶ 職員への個々の周知や全体での意識改革 ▶ 管轄課主導で研修を定期的に研修を行っている。
- ▶ ヒヤリハットを用いた振り返り ▶ 自己評価シートを使つての振り返り
- ▶ 当園には不適切保育防止委員会が設置されています。委員長は主任。メンバーは様々な職種、処遇の職員6名。相談役に園長がつき、随時委員会を実施。園のチェックリストを作り職員一人一人にファイルで渡しています。ファイルは週に1回委員長に提出。研修計画も委員会で決めてもらっています。個人的に絶対やろうと言ってやったのが、あなたならどうする? という感じのロールプレイングです。保育中のこれは? と思う1場面を演じ、意見交換をします。当園では、しない、させない不適切保育、をスローガンにして、短期の目標も掲示。いかのおすし、のように「おもしろい」「あそびば」といった標語のようなものも作りました。
- ▶ 時々おやつ後のお迎えが近づいたころ、チェックタイムではないですが、お迎えまで、もう少し、もう1回自分の保育振り返ってみてね、荷物の入れ間違いなども不適切につながりますよ、確認してみてね、のように、意識してくれるきっかけになるよう、音楽を流したりすることもあります。

(6) (4)で「行っている」とお答えされた方にお尋ねします。研修を受けて不適切保育とは何か理解できましたか。



(7) (4)で「行っている」とお答えされた方にお尋ねします。研修を受けて職員や園の体制等に変化がありましたか。



(8) (7)で「変化や工夫があった」とお答えされた方にお尋ねします。その変化や工夫を具体的に教えてください。

- ▶ クラス会、園内研修、職員会の回数が増えた。いつも保育を振りかえり話し合う場ができつつある。
- ▶ 職員の意識が変わり、環境を整えたり、より丁寧な保育を心がけるようになった。
- ▶ 毎年県主催の安全研修を全職員が受けている。受講後、各自感想を書いているが、書いたことがその場限りで実際に保育につながっていない。そんな中一人の保育士が自分の保育の限界を感じしんどい現状をはなしてくれた。各クラスのリーダーと共有し、園全体で体制を整え、現状の中でできることを進めている。
- ▶ はっきりと理解できたかとか分からないとか答えられない問題だと思う。園内で起こった問題に対し、その都度改善策を出し合いやっていくしかない。急激な変化は難しいので自覚することを大切に少しずつやっていくしかないと思う。
- ▶ 子どもへの言葉がけや理解に否定的な表現が減った。
- ▶ 職員間で気づき知らせ合うことができつつある。言えない場合も管理職への報告があるようになってきた。
- ▶ マニュアルの見直し等。
- ▶ 一人一人が気づきや発見について記入した用紙に返事を返すことで、前向きに職務に向かう姿勢がみられた。
- ▶ 自分の振り返りにつながった。
- ▶ 年齢に応じた着替えの仕切り等を設けた。

(9) その理由があれば教えてください。

- ▶ 全職員ではできていない。研修を受けた職員が、報告書を回覧したり、園内研修で報告したりはしている。
- ▶ 不適切保育という、保育士は自分が非難されていると反発するので、子どもの人権を大切にする研修としては、実施している。内容は、何が不適切か？というもの。

考 察

○円グラフ(4)を見てわかるように、おおよその園が不適切保育についての研修を行っており、多くの保育士が研修を受けて「不適切保育とは何かを理解できた」と答えている。

では、なぜ、不適切保育がなくならないのか。その要因として「人的余裕・時間的余裕がないことから起こる心の余裕のなさ」「学習不足」「国の配置基準の見直し」があげられている。配置基準の見直しについて訴え続けていくこと、事務や行事の見直しを行い業務軽減についても各園で検討していくことが引き続きの課題である。

また、研修やセルフチェックを行っているが、自分自身の保育(言動)と結びついていないことが不適切保育に繋がっていると考えられる。「保育はこうしなければならない」「苦手なものを食べられるようにさせてあげないとかわいそう」という固定観念からの脱却と保育士自身の意識改革が必要であり、「保育の安全」についての専門家の研修や人権研修を定期的に受け学習を積み重ねていくことが重要であると感じた。

研修会に参加して

第2回障がい児保育研修会

賀露保育園 山下 由香

「子どもの発達に寄り添う保育」と題し、鳥取大学医学部附属病院・新規医療研究推進センター・臨床研究支援部門特命助教の嘉手苺瑠輝先生にご講演いただき、配信期間11月1日から5日までオンライン研修で開催されました。

子どもたちの支援を考えるとき、個別の特別な支援だけでなく、まず集団への包括的なアプローチをすることが重要であり、具体的には子どもたちに見通しがもてるようにすることが大切であると話されました。「活動が楽しめるようにする」、「できたことを「すぐに」いろんな言葉で、視覚的に褒める」など、保育の中で大切なことを改めて確認できる機会となりました。

個別のアプローチを考えるとときの視点として、子どもと環境の相互作用があることも話されました。

行動上の問題には、要求・回避・注目・感覚の4つのきっかけがある。行動をする前や後に着目し、なぜその行動をしたのか、結果何が生じたのかなど、行動の理由を基



かて かる りゅうき
講師の嘉手苺瑠輝先生

に、代わりとなる望ましい行動の事前の支援の工夫を明確にする、そのかわり方をスモールステップで目標設定し、支援計画に盛り込む等、支援の方向付けの仕方を分かりやすくお話しいただきました。また、行動上の問題をその子一人の特性にしてしまうのではなく、私たち保育士を含めた周りの人とかかわりなど環境の見直しをしていくことの重要性も感じました。

講演の終わりに、私たちのたくさんの質問にも答えていただきました。支援するとき、気になるところばかりに目を向けるのではなく、得意なところにも目を向け、アプローチの手掛かりにしていくこと。支援がうまくいかなかったときはもう一度アセスメントし、情報の収集や理解をして見直す等、日々の保育に役立つ示唆をたくさんいただきました。その中で嘉手苺先生が、「ちよつとのことでもできたら喜び合う

ことで支援者のモチベーションをあげることも大切」と話されたのを聞き、私たちもお互いに支えあいながら子どもたちが楽しい園生活を過ごせるよう支援していきたいと思いました。

第2回乳児保育研修会

浜坂保育園 塩坂 幸子

第2回乳児保育研修会が11月15日から19日までオンデマンド配信されました。乳児教育実践研究家、保育SOWラボ代表、非営利団体コードノミカタ代表理事の井桁容子氏を講師に「乳児保育における保護者支援」と題して講演いただきました。

現在の大人たち(90〜40歳代)は、子ども時代、戦争や高度成長期などを体験し、「がんばらなければ」と子どもにも厳しく関わっていたという歴史があります。しかし今、コロナ禍を経てVUCAの時代(Volatility 変動性、Uncertainty 不確実性、Complexity 複雑性、Ambiguity 曖昧性、行き先が不透明で何が起こるか分からない時代)となり、子ども・若者・今の保護者には、がんばらないと許されず自信を無くしたり、みんなと同じでなければ不安になったりと、コミュニケーション力の低下やいじめ、不登校、虐待の増加などの姿が見られます。井桁先生はこれからは「つながりの時代」としてそれぞれの得意なことを活かして補い合い、他者を信頼して「助けて!」と言える力を培っていきましょうと話されました。

た。

次に、子どもの権利とは「やりたいことができる」「してほしいと言える」「してほしくないことはやめると言える(聞いてもらえる)」と子ども自身が感じていることであり、安心・安全が保障されていることだと話されました。保育者はその権利を守る専門家として子どもにとって共感的であること、そのためにはアタッチメントや対話が重要となるということをお話しました。様々な花があるように子どもにも違いがあり、それぞれの良さがあります。保育者が子どもを理解することで保護者の子ども理解も変わり、子ども、保護者、保育者それぞれにとって「安心できる園(施設)」になっていけると話されたことが心に残りました。他にも写真やエピソードを交え保育や子どもの状況などを分かりやすく話していただきました。

保育者として子どもに共感し、対話を大切にしながら

子ども・保護

者の思いに

寄り添って

いけるよう

努めていき

たいと思いました。



第2回施設長研修会

松保保育園 浦林 幸子

第2回施設長研修会が11月18日(月)にオンラインで開催されました。講師を和洋女子大学こども発達学科教授の矢藤誠慈郎氏にお願いし、「保育の質を高めるチームづくり」と題して講演いただきました。

折しもこども家庭庁が、2025年度以降の保育政策の新たな方向性として、政策の軸を「量」から「質」へと転換することを発表しました。今後、保育者の専門性の向上や環境改善、保護者との連携強化など、さまざまな観点から保育の質を高める取り組みを進めていく必要があります。今回の講演では「保育の質」の具体的な内容や、「保育の質」の向上に向けた取り組みについて、わかりやすくポイントを示していただきました。

特に、「保育の質」の向上の方法として、園内研修の進め方や職員同士のコミュニケーションのあり方など、具体的な事例を挙げて説明された内容が、とても参考になりました。

講演の中で印象に残ったのは『保育者や子どもが生きていくためには、様々な可能性を伸ばしていくためには、組織マネジメントの考え方を理解し、お互いの価値観や考え方を受け入れていくことが大切』といった言葉です。同僚性を高めるためのコミュニケーションの在り方が重要で、職員が意見を交わし合うことで共に成長していくといった文化や風土づくりが、園全体の保育の質を高めることになることを学びました。「保育に正解はない」と言われたように、一つの正解にこだわらず、様々な選択肢や可能性があることを理解して、問いかけ合い、学び合い、高め合い、支え合い、楽しみながらバージョンアップする組織になるように、努力していきたいと思いました。

職員の可能性、子どもの可能性に目を向けつつ、他の人の視点や考え方を柔軟に受け止めながら、私自身も自分の視点や考え方を豊かにしていきたいと心を新たにした研修でした。



やとうせいじろう
講師の矢藤誠慈郎先生

第2回食育研修会

いずみ保育園 隅田 千恵美

第2回食育研修会が12月9日(月)から18日(水)までオンデマンド配信されました。講師を一般社団法人母子栄養協会 管理栄養士 シライカヨコ氏にお願いし、「アレルギーの基礎知識と離乳食支援」と題してご講演いただきました。

現代は昔と違い、食べ物も豊富になりアレルギーの現状として日本では国民の3人に1人が何らかのアレルギーを持っていると言われています。近年ではクルミを含む木の実類のアレルギーが増えていることから、乳幼児期から気を付ける必要のある食品の一つとなっています。今後時代に沿ったアレルギーの知識を得て対応していかなければいけないと感じました。

私自身の子どもも卵、小麦、そば、ピーナッツ、米などたくさんアレルギーがあります。お菓子でもパッケージの材料を確認する日々です。実際に行うアレルギー対応は考えている以上に大変で、このような講演を聞くことによりアレルギーに対しての知識を再確認でき、また新たな知識を得ることもできました。今後このような講演を受講できる機会が増えればと思います。

第1回乳児保育研修会

すくすく保育園 高田 なおみ

子どもの生命を守るためにも、家庭で気を付ける点、施設と書類を通じて確認し気を付ける点があり、保護者と園、またその子どもに関わる周りの人たちの協力が必須であると痛感しました。この気持ちを持ち続け、保育者として今後にも保育に携わっていきたいと思います。

第1回乳児保育研修会が12月18日(水)エースパルク未来中心にて開催され、「0・1・2歳児の育ちを支える環境について」と題して鳥取大学地域学部副学部長・教授の塩野谷齊先生にご講演をいただきました。

まず保育所保育の拠所となる保育所保育指針における基本原則を細かく解説していただきました。特に指針の中の「安心感、信頼感、主体としての子ども、情緒の安定、乳児期にふさわしい体験」などのキーワードを常に確認しておき保育の環境に具体化していくことで、子どもが安心できる環境、主体的な活動ができる環境へつながることを再認識しました。

発達には段階があり次のステージを先取りするのではなく、乳幼児期の今

の発達の段階をより良く生き、今の充実が次の発達を導くとありました。そのためにも乳幼児期は今を大事にしつつ遊び、遊ぶための環境の重要性を改めて感じました。保育の環境としての人的、物的環境がありますが子どもの主体性が発揮できるような環境を整えることが私たちの役目であり、どんな玩具がいいか、遊べるかと工夫して保育する重要性を感じました。また環境を整えたら、あとは子ども任せではなく、ここに温かく関わる大人がいることが大きなポイントになり、保育者が一緒に遊びモデルを示すことで、やってみたい、遊びたい気持ちが生まれ、物的環境だけでなく人的環境が支えていると学びました。また依存あつての自立として、見てくれている安心感。いつでも安心できる場所としての保育者の存在の大きさも感じました。安心できる環境があるからこそ心配することなくチャレンジできる。日々の保育の中で



講師の塩野谷 齊 先生

初任・初級保育士研修会③

ひばり保育園 松原 葉子

最後に、子どもは環境との相互作用の中で育ち豊かな相互作用をもたらすのは遊びとも学びました。子どもたちにとって何が大切か、日々見極めながら、主役は子どもを念頭に保育していきたいと思えます。

初任・初級保育士研修会の3回目を11月22日(金)に福祉人材研修センターにて行いました。株式会社保育のデザイナー研究所 研究員の川辺尚子先生を講師に迎え、保育を可視化して子どもの育ちや学びについて話し合う実践型研修会でした。

始めに、参加者は各々、保育実践をポスターにまとめ持参し、4人程度の小グループに分かれて発表し合いました。研修も3回目ともなると参加される方々も顔見知りとなり、積極的に意見交換をし合い、時には笑い声も聞こえ、発表後には良い笑顔で拍手をして称え合っていました。

休憩をはさみ、3 チームに分かれてエントランスでポスターセッションを行いました。小グループで一度発表しているせいか発表する側も聞く側も積極的で、保育実践について多くの質問がやり取りされました。子どもの様子や遊びの内容等、保育についてしっかりと語り合うことができました。

発表を終えるごとに、川辺先生に興味深いポイントや魅力的な保育だったところを講評いただきました。普段保育をしていると中々結果が見えにくく、子どもの成長や保育の視点を見失い、時間が過ぎていくことがあります。写真に収め発表し、語り合うことで自分の実践した保育をじっくりと振り返ることができ、他の保育士の実践について、写真を見ながら語り合うことで保育の内容の理解が深まり、より豊かな保育が実践できると感じました。参加された方には、保育士同士で、保育について語り合う面白さを体験していただけたのではないかと思います。



初任・初級保育士研修会場の様子

令和 7 年度 研修等計画

県外研修

📅 日程や場所が決まっています！

| 期 日 | 事 業 名 | 場 所 | 備 考 |
|---------------------------|--|----------------|-------------------|
| 4 月 23 日(水) | 監事会 | 鳥取市 福祉人材研修センター | |
| 5 月 13 日(水) | 第 1 回理事会 | 鳥取市 福祉人材研修センター | |
| 5 月 23 日(金) | 代議員会、第 1 回施設長研修会 | 倉吉市 エースバック未来中心 | |
| 6 月 11 日(水) ～ 13 日(金) | 全国私立保育研究大会 | 岐阜県高山市 | 全国私立保育連盟 |
| 6 月未定 | 第 1 回食育研修会 | WEB | |
| 7 月 10 日(木) | 保育士研修会 | 倉吉市 エースバック未来中心 | |
| 7 月 17 日(木) | 初任・初級保育士研修会① | 鳥取市 福祉人材研修センター | |
| 7 月 17 日(木) ～ 18 日(金) | 日本保育協会中国・四国ブロック研修会 | 岡山県 岡山市 | 日本保育協会中国・四国ブロック |
| 7 月 29 日(火) ～ 30 日(水) | 中国地区保育研究大会 | 広島県 広島市 | 中国地区保育協議会 |
| 8 月 29 日(金) | 第 1 回乳児保育研修会 | 倉吉市 エースバック未来中心 | |
| 8 月未定 | 第 1 回障がい児保育研修会 | 未定 | |
| 9 月 3 日(水) | 初任・初級保育士研修会② | 倉吉市 倉吉体育文化会館 | |
| 11 月 6 日(木) | 第 2 回施設長研修会 | 倉吉市 エースバック未来中心 | |
| 11 月 20 日(木) ～ 21 日(金) | 全国教育・保育研究大会 *これまでの全国保育研究大会と全国保育士会 研究大会が1つの大会となります。 | 東京都 | 全国保育協議会 / 全国保育士会 |
| 11 月未定 | 第 2 回障がい児保育研修会 | WEB | |
| 11 月未定 | 第 2 回乳児保育研修会 | WEB | |
| 11 月未定 | 第 2 回食育研修会 | 未定 | |
| 12 月 19 日(金) | 初任・初級保育士研修会③ | 鳥取市 福祉人材研修センター | |
| 1 月 17 日(土) | 鳥取県保育推進研究大会 | 倉吉市 エースバック未来中心 | |
| 1 月未定 | 中国地区保育協議会人材養成研修会 | 岡山県 岡山市 | 中国地区保育協議会 |
| 未 定 | 主任保育士研修会 | 未定 | |
| 未 定 | 全国私立保育連盟中国・四国ブロック研修会 | 未定 | 全国私立保育連盟中国・四国ブロック |

* 期日及び内容等については、変更となることがありますので御了承ください。



うっちー先生のえほんばなし⑬



今回のえほんばなしは【あるテーマ】に沿って絵本を紹介いたします。

絵本紹介②

『いそがしいよる』

さとう わきこ作・絵 福音館書店 / 1981年

きれいな星空を外で眺めたくなくなったばばあちゃんは、ゆりイスを持ち出してゆったりしていました。そのまま外で過ごしたくなったので、家の中からベッドを持ち出してからどんどん家財道具を持ち出し、最後には更なる快適を求めて暗幕を張って落ち着くという本末転倒な話。

全19作品ある『ばばあちゃんシリーズ』の第一作目。



絵本紹介③

『そらいろのたね』

ながわ りえこ作 おおむら ゆりこ絵 福音館書店 / 1967年

ゆうじくんの模型飛行機とつねのそらいろのたねを交換。そらいろのたねを植えて水をあげてみると…なんと!空色の家ができてきたではありませんか!どんどん大きくなる空色の家が欲しくなったキツネは再度交換。でも最後には大変なことに!!

『いやいやえん』など同作者の他作品からもカメオ出演があり贅沢な絵本。



絵本紹介④

『おばけのてんぷら』

せな けいこ作・絵 ポプラ社 / 1976年

食べることが大好きなうさこが、こねこくんの食べていた天ぷらを見て自分も食べたくなり天ぷらを作りました。天ぷらの良い香りは山の上のおばけの所まで流れていきました。おばけがうさこの作る天ぷらをつまみ食いしていたら、大ピンチが訪れます!!最後のオチは現代でも充分に通用するすばらしさ。

近代おばけ絵本の源流といっても過言ではないせなけいこ氏の代表作。



絵本紹介⑤

『ことばあそびうた』

谷川 俊太郎作 瀬川 康夫絵 福音館書店 / 1973年

谷川俊太郎氏のことば遊びの詩が15編収録されています。その詩に世の中で一番売れている絵本『いないいないばあ』(童心社 / 1967年)の瀬川康夫氏が絵を描き、読者はことば遊びの世界へいざなわれていきます。「かっぱかっぱらった」「てとてとて」など言葉のリズムが心地よく小気味よい♪

私が保育士になって久しぶりに読んでみたら、全部覚えていて暗唱できたという逸話あり。



今回の絵本紹介は、テーマ【2024年にご逝去された作家の作品】の中から思い入れが深い4冊を紹介いたしました。私が1982年に生まれる前から既に第一線でご活躍されていて、もうどの絵本も出版されていました。保育士になったのが2003年。20年経ってもまだまだ子どもたちの中で読まれ続けていました。それから更に20年以上経った現在でもバリバリの現役絵本。今年度もクラスの子どもたちと読みあっています。

2024年は多くの絵本作家さんが亡くなられました。この記事をまとめている最中にも『14ひきのねずみシリーズ』(童心社)のいわむらかずお氏の訃報がとびこんできました。お悔やみ申し上げます。

数えきれないほどの人たちを魅了してきた絵本作家の新作がもうでることはないのか…と心から残念に思います。さとうわきこ氏の美術館に行き、サインを頂戴したことや谷川俊太郎氏のご講演を直接拝聴したことはいつまでも思い出に残っています。そして、素晴らしい絵本たちをこれからも読み続けていくことが、次の世代に残っていくことだと思っています。

「死んでからが楽しみだ」と言っておられた谷川俊太郎氏は、今どこでどうしていらっしゃるのだろうかと思いにふける今日この頃な「えほんばなし」でした。

令和6年度 鳥取県子ども家庭育み協会 会長表彰

ご受賞おめでとうございます

| 氏 名 | 所 属 | 職 名 |
|--------|------------|--------|
| 宇山 亮子 | ひまわり保育園 | 保 育 士 |
| 浦田 京子 | 鳥取あすなる保育園 | 副主任保育士 |
| 加藤 裕美子 | こたか保育園 | 主任保育士 |
| 川本 麻衣 | 久松保育園 | 保 育 士 |
| 来福 瞳 | 仁慈保育園 | 保育教諭 |
| 高浦 志乃 | 淀江どんぐりこども園 | 主任保育教諭 |
| 竹内 綾乃 | 向山保育園 | 副主任保育士 |
| 竹内 幸 | わかば台こども園 | 主任保育教諭 |
| 田中 理恵子 | ひまわり保育園 | 調 理 員 |
| 谷口 保子 | 向山保育園 | 保 育 士 |
| 難波 るみこ | むつみこども園 | 主任保育教諭 |
| 西尾 あい | めぐみ保育園 | 保 育 士 |
| 橋本 汐莉 | 白兔保育園 | 保 育 士 |
| 福田 千宏 | わかばこども園 | 主任保育教諭 |
| 福山 篤 | 仁慈保育園 | 保育教諭 |
| 松本 尚子 | 久松保育園 | 保 育 士 |
| 森脇 裕子 | めぐみ保育園 | 保 育 士 |
| 淀瀬 愛 | 向山保育園 | 保 育 士 |
| 米山 一江 | むつみこども園 | 保育教諭 |

(敬称略、五十音順)



先日一人で回転寿司屋さんに行きました。受付は機械で番号を渡され順番が来ると機械から席札が出てきます。席に着くまで誰とも話をしていません。カウンター席に着くと相変わらず仕切り板で囲われています。タブレットで注文をして流れてくる寿司(餌)を食します。まるで鶏小屋で飼われている鶏になった心地がしました。(M・S)

新年の余韻に浸る間もなく、もう3月。卒園式の歌の練習が始まると、今年度も無事に楽しく過ごせた事への感謝を思い、つい聞き入ってしまいます。2年間、部員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。(S・M)

毎の苗は雪の下でも緑の葉を茂らせています。収穫を終えてから苗を増やし、夏の暑さ・冬の寒さに耐え、ようやく春を迎えます。今はたくさんの実がなる様子を想像して楽しんでます。(S・M)

あつという間に年度末。研修会の企画や開催など初めての経験にあたふたした2年間でしたが、たくさんの方に

ご協力いただき、無事に終わることができたように思います。皆様に出会えたご縁に感謝しています。

ありがとうございました。(M・M)

今年の年明けは、例年より暖かく、雪もなく穏やかに過ごせました。大雪で雪かきに追われるのはつらいですが、子どもたちにとって雪遊びは五感を刺激し様々なことを学べる貴重な機会だと思います。大人になっても子どもの様に無邪気に楽しめる雪遊びでリフレッシュしたいなと思っています。(S・N)

初めて、5歳の次男と二人旅をしました。目標は、家族みんなのドーナツを買って、帰宅することです。

まず、鬼太郎電車に乗り込むと利用者が多く、緊張している様子でした。自分で自分の事を「いい子でしょ」と評価するぐらい、おとなしかったです。

米子駅に着くと、寒すぎて、缶コーヒーを買って、手を温め合いながら、米子の街をたくさん散策しました。しっかりドーナツも買って、帰宅しました。

車のない不便さが、とても新鮮で、寒さだったり、景色だったり、子どもとの距離だったり、普段とはまた違った、ゆるーい時間が心地の良い一日となりました。

ちなみに、帰りの電車は、大はしゃぎで、しりとりの方が大きすぎて笑われていました。(K・N)